

## Made in Hachioji みやげ

団体名 サレジオ高専 ビジュアルコミュニケーション研究室

代表者名 有賀一史

### ①事業内容

同研究室にて昨年度より行われてきた八王子みやげの研究を継続して取り組む。Made in Hachioji みやげの事業を通して、八王子の地域活性化および、伝統産業の一つである織物の魅力を伝える商品の研究を行う。今年度は八王子の伝統や祭りをモチーフにした親しみやすい商品デザインとパッケージデザインを提案し、商品化する。みやげの製作後、各種イベント（サレジオ高専学園祭、ジャパンクリエイションなど）に出展し、八王子織物の知名度の更なる向上を図り、地域活性化に繋げる。

### ②実施報告

#### 2-1 実施の流れ

主に、学生がデザイン、パッケージ制作を行い、製品の製造は八王子織物工業組合員4社に協力いただいた。実施の流れとしては、5月に組合との打ち合わせがありそこで商品の方向性をきめた。その後研究室内で話し合い、Matsuri という共通のテーマをきめ、それを基に各自でデザイン展開を行った。統一感のある商品展開と、敷居の高い伝統工芸品を親しみやすくすることが目的である。8月頃まで組合とやり取りをしながらデザインを考えた。8月下旬に八王子 OPA で八王子学生委員会主催のイベント「体験！発見！学園都市 はちおうじ」でのアンケート結果もデザインの参考にした。9月には製品が完成し、その後パッケージデザインなどのブランディング展開を開始した。10月から1月にかけてサレジオ高専育英祭、JFW JAPAN CREATION（図1）、八王子いちよう祭り（図2）、千百年を紡ぐ八王子織物（図3）の4つのイベントに出展した。ここでは主に製品やパッケージなど広告宣伝物の展示、それに関するアンケート調査（価格、ターゲットなど）を実施した。イベントによって客層も違い、様々な地域の方とコミュニケーションを取ることができた。その後、パッケージ制作も完了し、八王子織物工業組合アンテナショップベネックでの販

売の準備も整った。今後の展開としては、協力企業や組合の販売計画に合わせてパッケージやデザインデータを納品する。



図1 JFW JAPAN CREATION 展示会場



図2 八王子いちよう祭り展示



図3 「千百年を紡ぐ八王子織物」展示

#### 2-2 最終提案物

<有限会社大原織物×峰岸>

「織物で日常生活を豊かにする」をコンセプトに、八王子いちよう祭りをテーマにしたマフラー、日

傘、アームカバーを提案。いちじょうの葉脈や幹を模した柄で祭りの雰囲気表現し、マフラーと日傘は高級感ある配色、アームカバーは四季に合わせた色合いにしている(図4)。



図4 峰岸最終提案物

<内田長織物有限会社×有賀>

「折りを届ける八王子織物」をテーマに、八王子七夕まつりをモチーフにしたストールとネクタイをデザインした。ストールはシルクの光沢感を生かし、ネクタイは金銀の笹の葉で高級感を演出。パッケージは短冊形で、ユーモアのある願い事を添え、若者向けに豊富に展開した(図5)。



図5 有賀最終提案物

<岡村織物有限会社×楠本>



図6 楠本最終提案物

八王子の四季の祭りをテーマにした織物柄をデザインし、現代的な浴衣とショルダーバッグを製品化。「四季祭絵巻」ブランドで展開し、浴衣は洋服として着用可能。余った布でスマートフォン用ショルダーバッグも制作した(図6)。

<田口織物工場×石田>

八王子の祭りをモチーフにしたハンカチをデザインし、「手に取る祭り」をコンセプトに Made in Hachioji みやげ商品を目指した。伝統模様を規則正しく配置し、ハンカチの切れ端で作った巾着はセット販売を考慮し、持ち運びやすくスマホも入るデザインにした(図7)。



図7 石田最終提案物

③事業を実施した感想

今回の事業では、目的としていた販売まで、準備の段階ではあるがたどり着くことができた。それに加え、様々なイベントに参加し、八王子織物の魅力を多くの人に伝えられたと考える。モノづくりとデザインについて、製造業者との連携の難しさを学ぶことができた。しかし今回の事業を通して、様々なイベントに参加し、若い人や外国人などさまざまな方々に織物やデザインについて興味を持っていただけた。特に学生が行っているという事に多くの関心を得られた。このことから、本校の学生が八王子織物に関わることでその知名度アップにつながると思われたため、今後も継続していきたい。